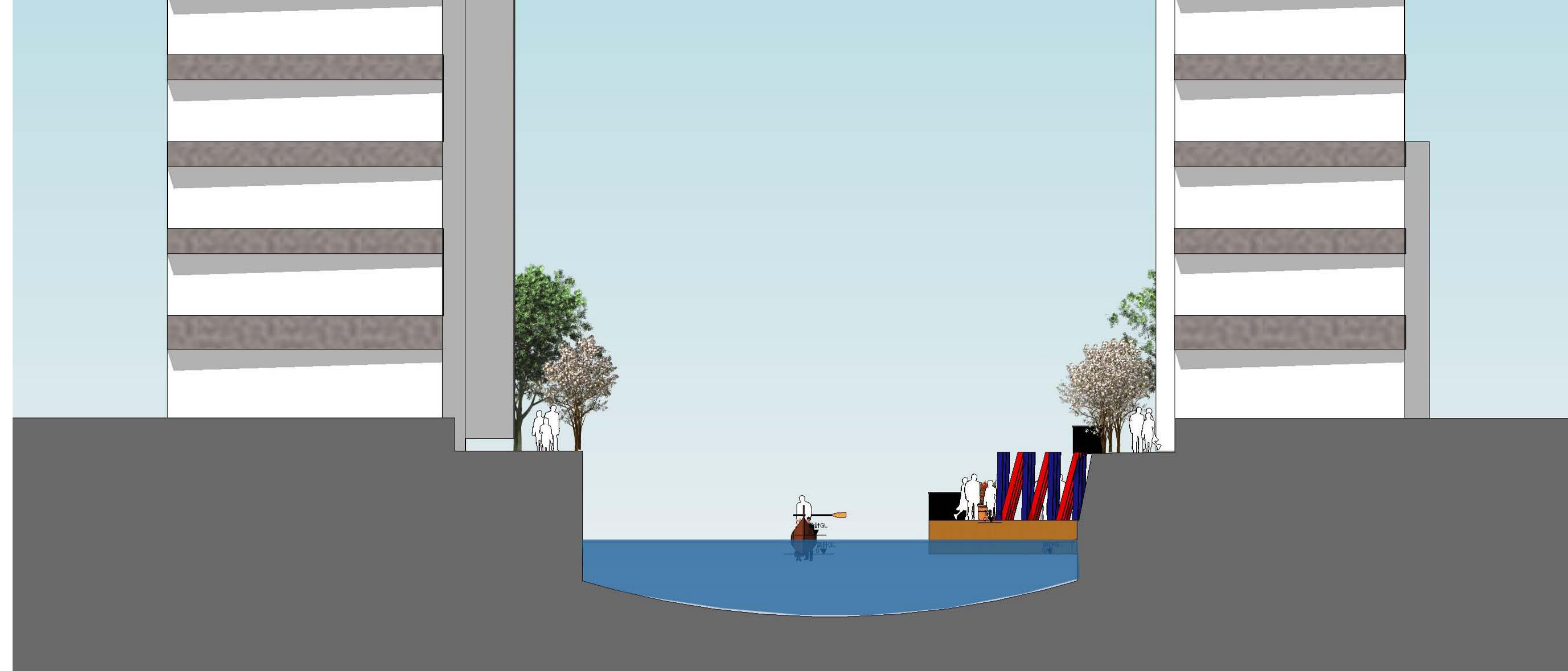
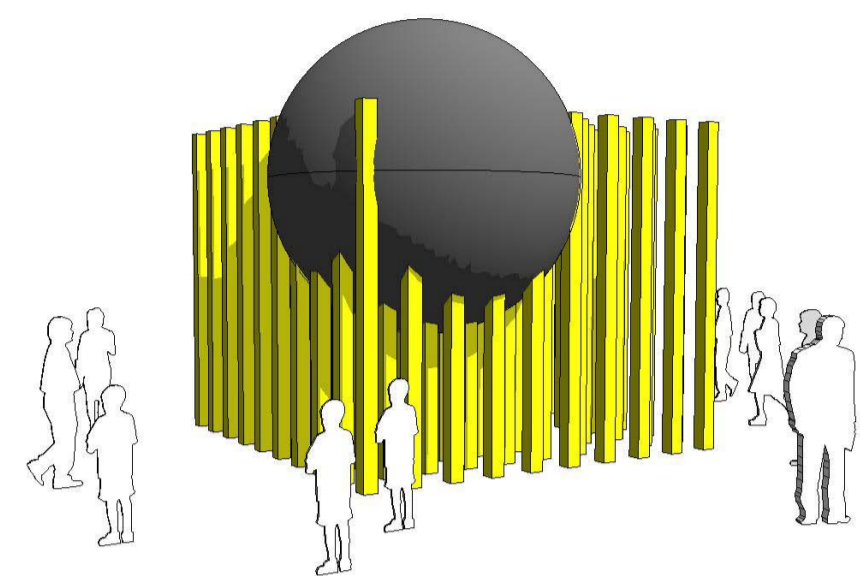




納屋橋から錦橋方向鵜を望む

錦橋南付近

錦橋から納屋橋の間は、唯一堀川の両岸に舗道があり、更に水辺に近い位置にウッドデッキを設置することで、様々なイベントが可能となり人々が多く集まり、賑わいが出る。



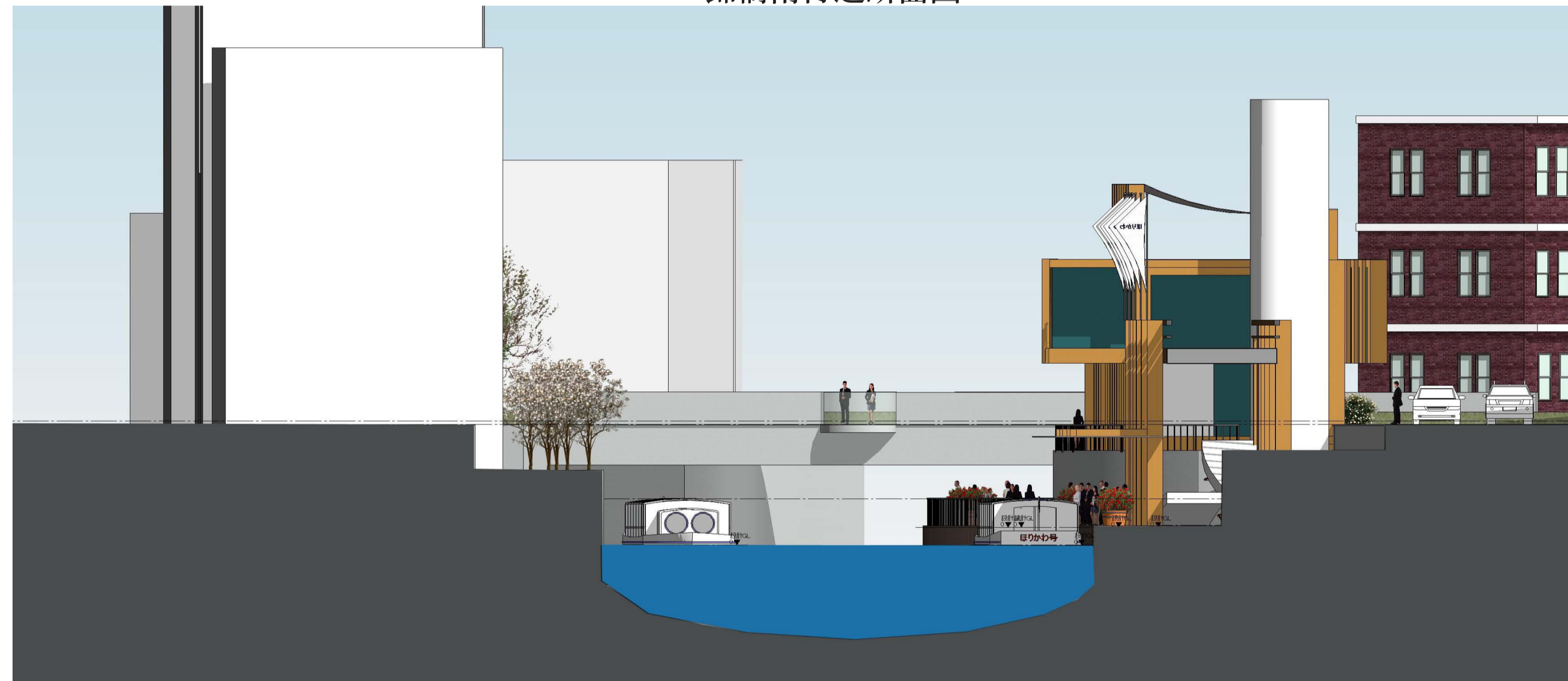
錦橋南付近断面図



納屋橋船着場を望む

納屋橋船着場

既存の船着場を拡充すると同時に、納屋橋から天王崎橋の東岸の敷地全体を使い、堀川の核施設としてアンダーパスにより既存堀川ギャラリーとも一体化された木造の「堀川ミュージアム」を新設する。



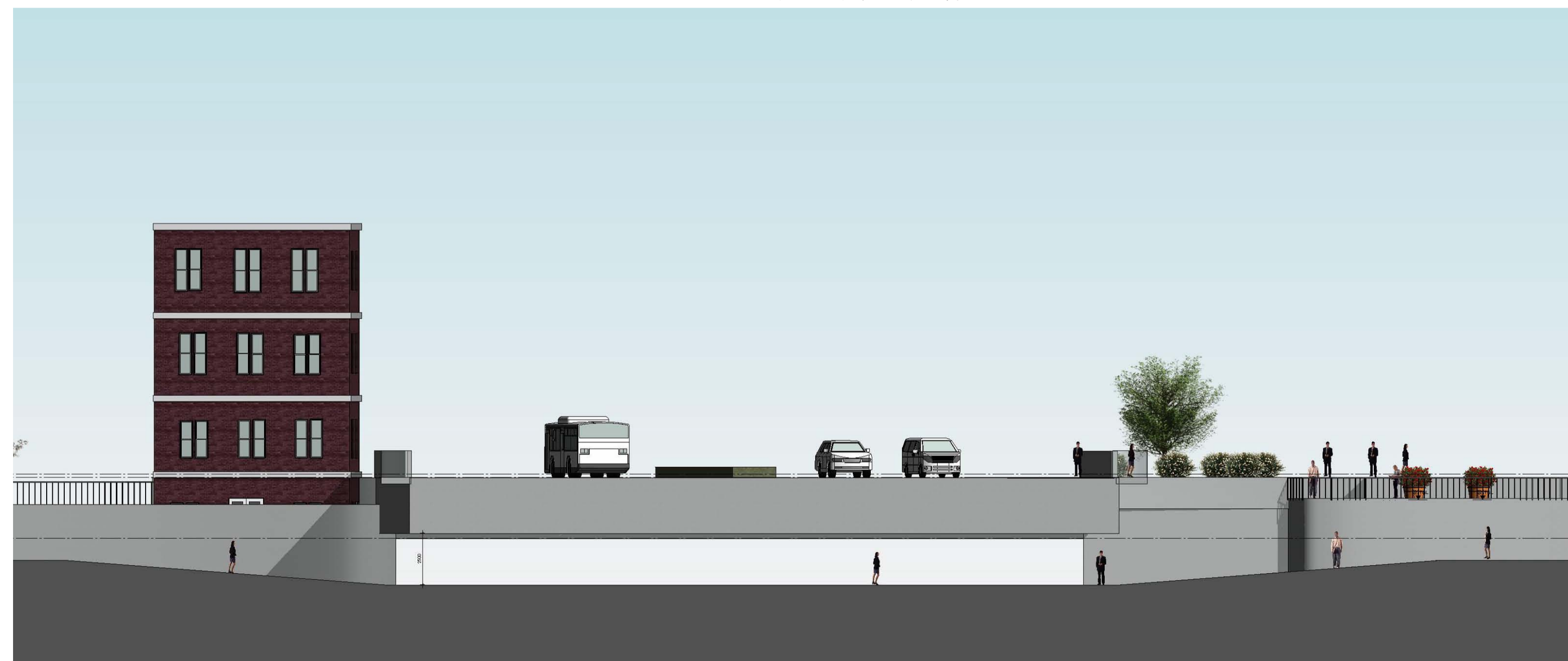
納屋橋船着場



納屋橋を潜るウッドデッキ

納屋橋アンダーパス

朝日橋から納屋橋の間≒1.8kmを途切れなく連続して歩けるように、各橋の下を潜るアンダーパスを設置する。特に一番厳しい納屋橋のアンダーパスは、道頓堀川の御堂筋のアンダーパスと同様の固定式とする。



納屋橋アンダーパス縦断面図